

日本動物看護学会 第18回大会

—抄録集—

開催日： 2009年7月26日（日）
会場：山脇学園短期大学 2号館3階



日本動物看護学会

大会長挨拶

「日本動物看護学会 第18回大会 開催にあたって」

帝京科学大学アニマルサイエンス学科 高橋英司

1995年に発足した日本動物看護学会は、「動物看護に関する研究を中心として、会員相互の情報交換の場を設け、この分野における研究の進展を図ることを目的」として幅広い学会活動を行ってきました。発足以来17回の大会、29回の例会が開催され、研究発表、講演、シンポジウム、セミナーなどを通じて、動物看護学と関連学問領域に携わる学会員がお互いに交流を図り、研究成果や意見を交換するための開かれた場を提供してきました。近年、動物看護師の社会的地位および認知度の向上を目指す声がますます高まっています。そのためには動物看護師の国家資格化の早期実現が望ましいことは万人が認めているところです。このような背景のもとに日本動物看護学会は2003年に動物看護師資格認定試験を開始しました。このことにより、既存の他の動物看護師認定団体との協調を図り、将来の全国的な統一試験制度へ向けての取組みが推進されるものと期待されています。

2005年には、農林水産省消費・安全局に小動物獣医療班が設置され、「小動物医療に関する検討会」が6回にわたって開催されました。その中で、動物医療補助者制度が課題として取り上げられ、「将来に向けて獣医療補助者の社会的身分を確立するためには、獣医療補助者の各団体並びに獣医師団体等が中心となって、教育と資格認定基準の平準化に向けた取り組みに着手すべきである」との最終報告がなされました。それを受けて、2006年に日本獣医師会が動物診療補助専門職検討委員会を発足させ、動物看護職の早急な団体設立と統一資格試験化に向けて討議がなされました。そして、2008年2月には発足した動物看護職全国協会（仮称）設立準備会が発足し、その後その活動は日本動物看護職協会発起人会に引き継がれ、2009年4月20日に一般社団法人日本動物看護職協会が正式設立されました。このことにより、動物看護職の全国組織が設立され、職能団体としての今後の活動に大きな期待が寄せられています。

日本動物看護学会 第18回大会は山脇学園短期大学を会場として、7月26日（日）に開催されます。今大会は日本ペット栄養学会との合同開催で行われ、合同シンポジウムとして、東京大学大学院農学生命科学研究科教授の森 裕司先生に「獣医療における動物行動学の役割」についてご講演をお願いしております。日本動物看護学会独自のプログラムとしては、一般演題の口頭発表が15題、パネル発表3題の参加があり、動物看護の現場で実践的な活動を行っている動物看護師および学生の発表を中心として活発な議論がなされるものと期待しております。シンポジウムとしては、「動物看護学教育カリキュラムの検討」について大学および専門学校における取組みについて紹介していただきます。日本動物看護職協会の設立に伴って資格試験統一化が早急に望まれることから、動物看護学教育の検討は重要な課題の一つであり、各方面からの活発な意見交換が行われることが期待されます。

動物看護職をめぐる大きな変革がみられた2009年に開催される日本動物看護学会第18回大会が、意見交換の場として活用されることを願ってやみません。

< 目次 >

大会長挨拶	1
開催概要	3
大会運営についてお願い	4
会場案内図	5
プログラム.....	6
出展業者一覧.....	8
要旨	
シンポジウム 要旨	9
一般演題(口頭発表) 要旨	17
一般演題(パネル発表) 要旨	39
日本動物看護学会 第 18 回大会 実行組織	45

開催概要

日本動物看護学会 第18回大会

開催日

2009 年 7 月 26 日 (日)

会場

山脇学園短期大学 2 号館 3 階 (東京都港区赤坂 4-10-36)

主催

日本動物看護学会

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 2-23 アクセス御茶ノ水 2F

TEL 03-5298-2850 FAX 03-5298-2851

HP <http://www.jsan.gr.jp>

E-mail info@jsan.gr.jp

合同開催

日本ペット栄養学会 第11回大会

大会運営についてのお願い

参加者の方へ

1. 参加される方は、必ず受付を済ませ、名札と抄録集をお受け取りください。
2. 講演順序は都合により変更される場合があります。ご了承ください。
3. 山脇学園短期大学は敷地内禁煙となっております。喫煙所はございませんので、ご了承ください。
4. 床保護の為、ピンヒールの靴をお履きの方は、2号館内ではスリッパにお履き替えください。
5. 雨天時には、濡れた傘は傘袋にお入れください。

口頭発表者の方へ

1. 受付にて、名札をお受け取りください。
2. 発表時間は8分間、質疑応答が2分間の合計10分間となります。持ち時間を厳守してください。
3. 次の発表者は、前の発表者が始まる前までに次演者席にお着き下さい。

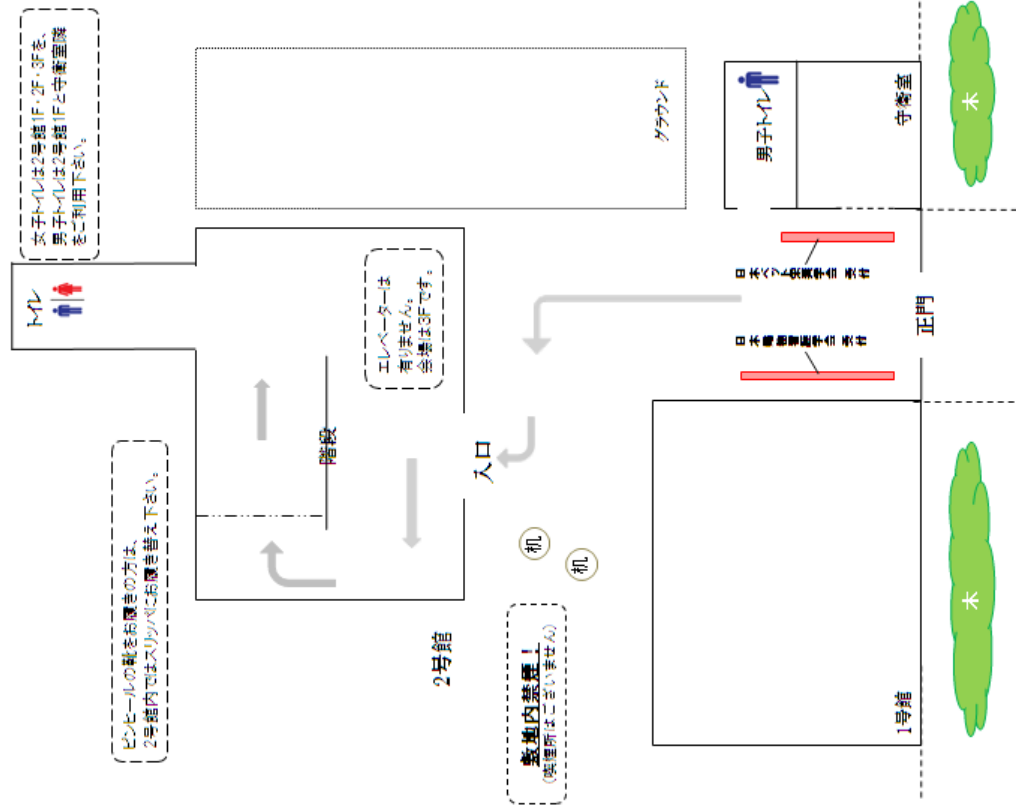
パネル発表者の方へ

1. 受付にて、名札をお受け取りください。
2. パネルにあらかじめ演題名、発表者等を掲示します。ご自分の演題名の下に掲示してください。
3. 当日は、午前9時より掲示が可能となります。パネル発表の行われる12時30分までに掲示してください。

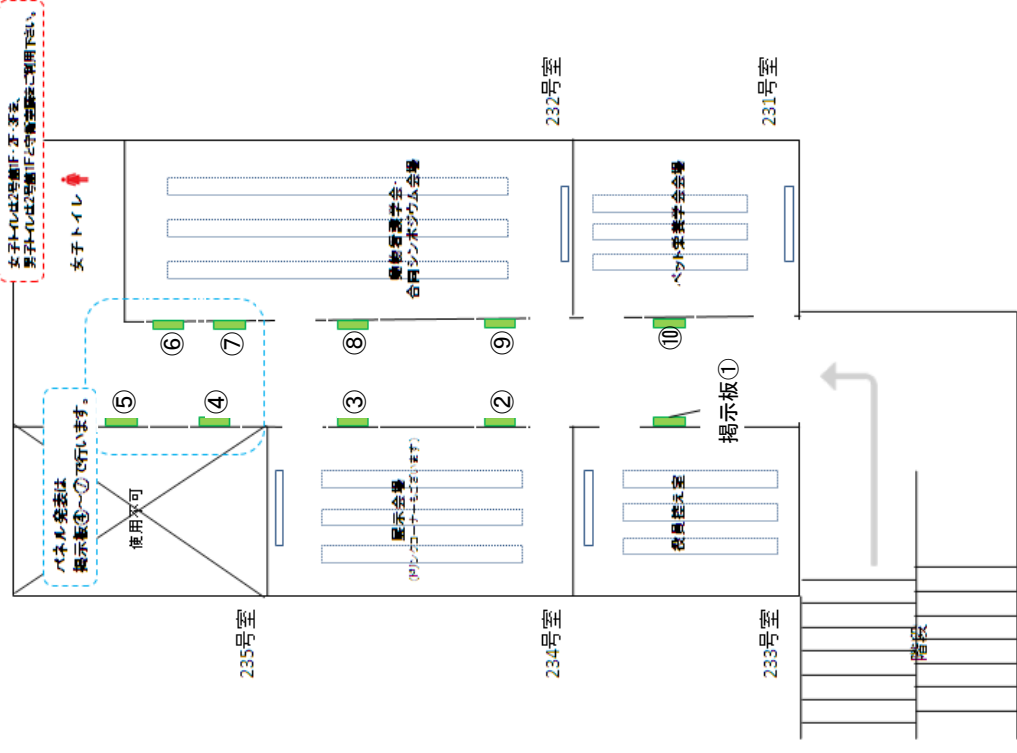
座長の方へ

1. 受付にて、名札をお受け取りください。
2. 口頭発表は、1題あたり発表8分間、質疑応答2分間の10分間となります。進行にご配慮ください。
3. 次座長の方は、20分前までに会場にお越し下さい。

会場案内図



山脇学園短期大学 全体図



会場全体図(2号館 3階)

プログラム

(敬称略)

9:30～12:30

開会あいさつ 大会長 高橋英司（帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授） 一般演題 口頭発表

【座長：種市康太郎（桜美林大学 准教授）】

1. 「シャンプー実施時における犬の血中ストレスマーカーの変動」

船元謙二（日本獣医生命科学大学 動物医療センター）

2. 「飼い主との絆について」 竹中晶子（赤坂動物病院）

3. 「動物看護師のストレスとうつ」

木村祐哉（北海道大学医学研究科医療システム学分野）

【座長：小松千江（新ゆりがおか動物病院 動物看護師）】

4. 「動物看護に家族カルテを導入した取り組み」

小嶋未来（小島動物病院アニマルウェルネスセンター）

5. 「動物看護師勉強会『十勝 VTeam』の発足と活動報告」 北口倫子（にれの木動物病院）

【座長：島田真美（有限会社サンラボ）】

6. 「飼い鳥の食餌について」 小沢知美（横浜小鳥の病院）

【座長：村中志朗（広尾動物病院 院長、東京都獣医師会 会長）】

7. 「腫瘍診療において動物看護師が作成した治療経過記録の成果」

三輪教子（カニエ動物クリニック）

8. 「終末期看護における倫理的ジレンマ～舌癌患者の長期入院を通して～」

山崎州子（王寺動物病院）

9. 「当院における周術期体温管理」 小嶋哲也（みずほ台動物病院）

【座長：兼島孝（みずほ台動物病院 院長、琉球動物医療センター 院長）】

10. 「脛骨腓骨骨折をした猫の看護の1例」

猪野麻由花（帝京科学大学 アニマルサイエンス学科）

11. 「ダックスフンドの椎間板ヘルニア6症例の検討」

長野早紀子（帝京科学大学 アニマルサイエンス学科）

12. 「一時的気管造瘻術・永続的気管造瘻術の看護事例」 崎山法子（王寺動物病院）

【座長：中俣由紀子（かしま動物病院 動物看護師）】

13. 「良質な看護を提供するための取組-24時間看護体制導入後の問題から見えたこと-」

富永良子（ネオベッツ VR センター）

【座長：桜井富士朗（帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授）】

14. 「自分達の看護を見つめ直す-看護記録監査を行って」 橋本美穂（西谷獣医科病院）

15. 「院内教育とスタッフの育成を考える-中途採用者のレベルアップを目指して-」

瀬戸晴代（西谷獣医科病院）

12:30～13:30

パネル発表

【進行：松原孝子（日本動物看護学会 副理事長、一般社団法人日本動物看護職協会 副会長兼専務理事）】

12:40～「日本動物看護職協会と日本看護協会との比較検討」

齋藤みちる（七里ガ浜ペットクリニック）

12:50～「動物看護職が職能団体に望むこと～入会時アンケート調査より～」

横田淳子（横田動物病院）

13:00～「成長期の犬における血液生化学検査値の変化」

五十嵐綾乃（日本獣医生命科学大学 動物医療センター）

日本動物看護学会 第1回評議員会

（233号室「役員控え室」にて）

13:30～14:00

日本動物看護学会 第15回定時総会

（232号室「動物看護学会・合同シンポジウム会場」にて）

14:00～15:15

合同シンポジウム

【座長：桜井富士朗（帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授）

左向敏紀（日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科 教授）

「獣医療における動物行動学の役割」

森裕司（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

15:30～17:30

日本動物看護学会シンポジウム

【座長：高橋英司（帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授）】

「動物看護学教育カリキュラムの検討」

内藤順平（帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授）

左向敏紀（日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科 教授）

磯日出夫（TBC学院国際ペット総合専門学校 学科長）

18:15～

懇親会

＜会費制・別会場にて＞

出展社一覧

(五十音順)

アニコム損害保険 (株)
アリアンツ火災海上保険 (株)
 (株) インターズー
 (株) インターベット
 (株) A V S
 (株) 学窓社
 新樹社書林 (株)
 大日本住友製薬 (株)
 (株) ダブリュ・アイ・システム
 (財) 日本食品分析センター
 日本動物看護学会
一般社団法人 日本動物看護職協会
日本ヒルズ・コルゲート (株)
 原沢製薬工業 (株)
 (株) ファームプレス
 (株) モノリス
レーシングドライバー (有)
ロイヤルカナン ジャポソ

シンポジウム 要旨

獣医療における動物行動学の役割

東京大学大学院農学生命科学研究科

獣医動物行動学研究室

森 裕司

【はじめに】

わが国における犬・猫の飼育頭数はついに子供（15 歳未満）の人口総数をしのいだという。また都市部の犬の 8 割は室内飼育されており、彼らはコンパニオンアニマル（伴侶動物）とよばれ家族の一員として大切に扱われる。ペットはいまや私たちの生活になくてはならない存在となった。筆者の専門は獣医動物行動学であり、研究室の標語は、魔法の指環をはめると動物たちと自在に会話ができたという伝説のソロモン王にちなんで、「ソロモンの指環を見つけよう」である。もちろん魔法は使えないので、科学の助けを借りて動物たちの行動の謎を探ろうという志である。同時に、私たちは大学の付属動物病院（Veterinary Medical Center）に行動クリニックを開設しており、動物たちが示すさまざまな問題行動の診断治療を通じて、悩めるペットと飼い主を助けるのも大切な仕事の一つである。



図：研究室のロゴ（ソロモン王と動物たち）

【心身の健康の大切さ】

人と動物との快適な共同生活を考える上で、まずはお互いの心身の健康が何にもまして大切な前提条件である。動物も人と同様に、過度の不安や恐怖といった心理的ストレスに長い期間さらされると、自律神経系に失調をきたしたり免疫機能が衰えたりして体調を崩し、また疾病からの回復が遅れたりすることがあり、結果として異常な行動パターンを示しはじめることがある。例えば激しい攻撃行動は飼い主にとってやっかいな問題だが、ペットがなにかに不安や恐れを強く感じるものがきっかけになることも少なくない。人と動物をくらべてみると、喜怒哀楽をつかさどる情動反応系や神経内分泌系、免疫系などの仕組みには共通性が高い。いまや身体のみでなく心の健康の大切さが動物たちにおいても重視される時代となった。身近な動物たちを理解することは、実は私たち自身への理解を深めることに他ならないのである。

【ネオテニーによる行動変化】

本講義ではペットの代表選手として犬をとりあげる。最近、筆者の周囲で犬に“はまる”人たちが増えているのも理由の一つである。そうした人の中には心理学や行動学の研究者、つまりプロの動物屋さん達も含まれていて、「犬の賢さは猿（賢い動物の代表）とはベクトルが違っており、たとえば知能指数（IQ）はチンパンジーの方が高いかもしれないが飼い主の感情を読み取る力（EQ）は犬のほうが高いのではないか」と愛犬を横に“親ばか”丸出しで主張したりするのである（筆者もその一人だが）。最近、Science という有名な科学誌で 200 もの言葉を理解する犬の例が紹介

されたり、麻薬探知犬や補助犬はもとより、飼い主のてんかん発作を予知したり早期癌を発見したりする犬たちの活躍を見聞きするにつけ、犬の潜在能力には計り知れないものがあるという思いを強くする。

犬は人間社会にとけ込み家族の一員として扱われる不思議な動物であるが、その理由を、犬の先祖種である狼の行動に求める研究者は少なくない。狼は、群れの仲間に対する寛容さと、それ以外の外敵に対する警戒心と容赦ない攻撃性という二面性を持つ動物である。犬が飼い主に対してはあくまで従順でありながら侵入者に対して果敢に立ち向かっていくのは、狼から受け継いだ行動様式とされる。

狼と犬の遺伝的差異は犬種間より小さいとも言われるが、攻撃性などの行動的表現系は大きく異なる。その違いの背景には幼形成熟(ネオテニー；幼いときの性質を保持したまま大人になること)があると推察される。狼も幼い時期には無邪気で人なつっこいのだが、ひとたび成熟すれば“心の扉”は閉ざされ新しいものは受け入れ難くなる。頑迷固陋なオヤジ的行動の発達にも通じる加齢性変化である。

そして独り立ちした狼は、常に警戒心を怠らず、見知らぬ相手はすべて敵(か獲物)となり、闘争か逃走か(Fight or Flight)という野生で生き残るために不可欠な、緊張感あふれる毎日を過ごすことになる。日曜の昼下がり、居間でお父さんと枕を並べて無防備にグーグー昼寝するわが愛犬たちとは大違いである。

犬はいつまでも子供の心を残したままで大人になりきれない狼とも言われる。子供の心とは好奇心に満ちあふれ(逆に警戒心はうすく)、柔軟に学び続けることのできる精神構造のことである。犬では“心の扉”がいつまでもたっても閉じないように進化したのかもしれない。

わたしたち現代人も犬と同様にネオテニー化してしまったという説があるが、動物から学ぶべきことはまだまだ沢山ありそうで研究の種は尽きそうにない。

【心の成熟と学習】

心の発達過程には、社会化期(あるいは感受期)とよばれる学習能力が特別に高まる大切な時期があり、まさに“三つ子の魂百まで”といった一生にわたる影響が心に刻み込まれる。どの動物にもこうした時期があるが、犬では生後4週から12週位までの時期が社会化期にあたる。子どもたちは見たり聞いたりするための感覚神経系と体を動かすための運動神経系が次第に発達し、それにつれて好奇心の塊となって、あちこち探検し兄弟で組んずほぐれつじゃれあいながら成長していく。無邪気で怖いものなしの時代である。この時期に触れ合った対象は、味方(側にいても大丈夫な存在)として記憶に刻まれ、成熟後にふたたび出会っても忌避や恐怖の反応が起こらない。社会化期にパピークラス(子犬教室)で多くの人や犬に出会う経験をつんだ子犬が社交的な成犬に育っていくのはそのためである。一方、この時期に親兄弟からの分離や孤独といった負の体験を重ねると不安傾向が高まり、すべてに疑心暗鬼の怖がり犬として成熟し問題行動を起こすリスクも高くなる。なにかの偶然によって身を守る手段のひとつとして攻撃行動が組み込まれてしまうと、飼い主すら触れないガウガウ犬になりかねない。

不安傾向の高低といった個体の気質は、遺伝的要素と環境要因の相互作用によって形成される。

社会化期はもとより最重要な時期であるが、その後も様々な体内外の環境からの刺激に反応し学習を積み重ねながら、それぞれの動物の個性（特異的な行動発現様式）ができあがってゆくのである。行動の動機付けを司る脳のメカニズムについて研究が進んだこともあり、問題行動の行動修正療法においても今や罰はなるべく用いずに学習理論に基づく陽性強化（ほめてしつける）を基本とする方法が主流となった。ほめられてよい気分になると学習効果も高まることが分かっている。学習理論はトレーニングやしつけの基本でもあり、人間にも応用可能らしい。おだてられて木に登るのは何も豚だけではなさそうである。

【動物行動医学の課題】

人においては“病は気から”と言われるように心理的因子が生体の恒常性（ホメオスタシス）を掻き乱し様々な病気を生み出すことは周知のことだが、動物医療の現場においても情動ストレスと免疫機能などとの関連にはもっと注意が払われてしかるべきであろう。つねづね動物病院でおこなわれる獣医療は、小児医療に通じる面があると感じている。なにかの病気や怪我で入院するとき、大人は苦痛をとまなう治療行為であっても、その意図を理解し納得すれば治癒を目指して我慢することもできる。しかし幼児はどうだろう。家族と引き離された孤独感と辛い治療に対する不安感は大抵大人とは比べようもないはずである。そして強い不安や精神的なストレスが免疫力などいわゆる抵抗性や治癒力に影響を及ぼして治療効果を減ずることはよく知られている。

動物たちの心の仕組みをもっと理解できれば、ソロモンの指輪に一步近付けるだけでなく、よりよい獣医療の発展に役立つに違いないと思っている。

帝京科学大学アニマルサイエンス学科動物看護福祉コース関連カリキュラム

帝京科学大学アニマルサイエンス学科
内藤順平

帝京科学大学アニマルサイエンス学科は平成 13 年にバイオサイエンス学科アニマルサイエンスコースとして発足し、翌年にコンパニオンアニマル（CA）と野生動物の両方を対象とした教育と研究を行う学科として独立しました。学生がすべての講義を受講できるようなカリキュラムでスタートとしました。これまで動物看護はCA 専門科目の 1 分野で、動物看護に特化しておらず関連科目数もそれほど多くありませんでしたが、多くの学生が動物看護師の資格取得を目指しております。学科発足から 8 年経過した今、学科の学生数の増加に伴い、平成 22 年度からはアニマルサイエンス学科はアニマルサイエンスコースとアニマルセラピーコースの 2 コース制からアニマルサイエンスコース、アニマルセラピーコース、野生動物コース、動物看護福祉コースの 4 コース制に分かれます。この内、動物看護福祉コースは 22 年度から千住の新キャンパスに移動し、動物看護により特化した内容の講義を定員 100 名の学生に行います（完全移行は 23 年度から）。今回は、この動物看護福祉コースに関連したカリキュラムの概略について紹介いたします。

動物看護福祉コースに関連する教科は約 28 をあり、コースに特化したものを専門科目に、アニマルサイエンス学科に共通するものを専門基礎科目に配しました。新カリキュラムの目指すところは従来の動物看護分野の充実と看護職域の拡充を図ることにあります。そのため、これまでの基本的な科目である形態学、検査学、疾病学、栄養学、看護学と言った教科に加え、動物の身体機構の理解にこれまで不十分であった生化学を加え、また病気の理解をより深めるため、これまでの疾病学を内科および外科疾病学の二つに分け、病原微生物学を加えた。さらに看護の新たな職域に対応する様にグルーミング概論、リハビリテーション学を加えた。新カリキュラムの分野は以下のように表せます。1) 動物の身体機構に関する科目：3 科目、2) 動物の病気に関する科目：5 科目、3) 動物の健康管理に関する科目：5 科目、4) 動物看護・福祉に関する科目：6 科目、5) 関連科目：9 科目。関連科目はアニマルサイエンス学科の他の分野と共通性があり、看護福祉コースの補強に資するものであります。

実習は 1 年後期から 3 年後期まで行う計画です。実習内容は概ね、動物飼育とアニマルケア実習、微生物実習、形態学実習、生理・生化学実習、臨床病理実習、しつけとハンドリング実習、グルーミング実習、リハビリテーション実習、看護実習、問題行動実習、病院実習などを予定しています。特に、千住の新キャンパスでは教育病院を併設し、病院実習および犬、猫の取り扱い実習の充実を図ります。

帝京科学大看護福祉コースの講義および実習の大筋を紹介した。今後、他大学との間の関連性、整合性を検討し、コアカリキュラムを設定していく必要があると考えます。

動物看護学教育カリキュラムの検討

日本獣医生命科学大学 左向敏紀

日本の少子高齢化の進展により伴侶動物の重要性の上昇、獣医療への期待が高まっている。獣医療に対する要望も個人の価値観の多様化しており、高度医療であったり、動物の QOL 重視であったり、家族の心理的ケアであったりと様々である。このため獣医療に携わる動物看護師に求められる資質、教育レベルも広範になっている。

医学分野では医師の指示のもとで医療に関わる医療従事者（看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士等）が多数存在し、医学・診療領域の業務の一部をカバーし、医師を頂点とする高度医療システムが成り立っている。

獣医学・獣医療の高度化により、獣医師および獣医療関係者の高度化、分業化が必要となってきた。このため獣医療従事者（動物看護師）の必要であり、その教育レベルの確保が必要である。

獣医看護師に求められる業務は医療での看護師、臨床検査技師、診療放射線技師等広範に及ぶ。動物看護教育は獣医学教育だけでなく看護技術といった教育もしなければならないことになる。すなわち非常に多くの内容を教育し習得させなければならない。さらに、放射線技術、リハビリテーション、野生動物、オーナー教育など通常業務以上の知識、すなわち今後要望されてくる知識についても教育する必要があるだろう。

コアカリキュラムの設定

臨床看護師としての最低必要条件の知識・実習をコアカリキュラムとして設定する必要がある。また、コアカリキュラムは将来の統一認定試験、国家試験の出題基準と近い内容となる事を念頭に作成する必要がある。また、本年度より獣医学教育のコアカリキュラムの検討が獣医大学を中心に検討が始まっている。この検討も参考にしながら動物看護師の教育カリキュラム（コアカリキュラム）を検討して行かなければならないだろう。

獣医師国家試験、看護師国家試験は大項目、中項目、小項目に項目立てされている。内容的には類似したところも多いが当然のことながら獣医師国家試験は疾病からの分類が多く認められ、看護師国家試験では技術、看護師術方向からの分類が中心である。動物看護師のコアカリキュラムは看護技術からの獣医学医療の理解を主眼として作成しなければならないであろう。

基礎分野としては科学的思考の基盤として科学的思考力やコミュニケーション能力を高め、また動物、人間、社会の関わりを理解して人間動物関係論、社会と動物の関わり論を習得するべきだろう。

専門基礎分野では生体の構造と機能や疾病の成り立ちと回復促進について理解するために、解剖生理学、生化学、栄養学、病理学、微生物学等の内容を学ぶ。また、動物と社会との関係の理解を深めるために、関係法規、関係制度、職種などを理解するプログラムが必要であろう。

専門科目としては看護理論と実践を結びつけ、獣医療チームの一員としての役割を学ぶ。臨床現場で必要な血液検査、生化学検査、細胞診等の技術を習得する。また、若齢期、成年期、老齢期の各ステージに応じた看護、健康回復・保持増進、疾病や傷害を持つ動物に対する看護の方法を学ぶ。老齢期看護については飼い主へのサポートも学ぶ。などの必要性がある。

追加教育項目

各教育施設での特徴付けとして、今後動物看護師が獣医療の中で行うことの出来るようになる可能性のある、産業動物に関する講義、放射線技術に関する講義、獣医歯科学および皮膚科学の扱い、野生動物学に関する講義および実習、リハビリテーション（理学療法）に関する講義等も取り入れる必要があるであろう。またグルーミング、トリミングおよびトレーニングの扱いについても検討する必要がある。

専門学校での動物看護教育カリキュラム

TBC 学院国際ペット総合専門学校 磯日出夫

近年、小動物獣医療の進展は著しく、高度獣医療、疾病別専門病院およびペット販売・ケア・ホテル・グルーミング併設病院など多岐にわたり、全国の動物病院数も急増している。その背景にはデジタル化された社会生活の中で“癒し”を求める人たちのニーズによりペットブームは築かれ、その結果として動物病院は支えられている。その動物病院の80%以上のところに動物看護師は勤務し、一つの動物病院では獣医師より動物看護師の数の方が多いのが一般的であり、現在2万人が従事しているとされている。今や動物病院経営と最新獣医療を行うには動物看護師なしでは成り立たないと言っても過言ではない。また、飼い主からも動物看護師が獣医療に大きく貢献していることは一般的に認識されている。しかし、勤務実態として動物看護師の待遇は決して満足いくものではなく、低賃金、重労働が問題となっているのが現況である。よって、一日も早く社会的地位の確立と待遇改善が行われないと、冷遇される職業として定着してしまうことが危惧される。そこで、専門学校、短期大学、大学、認定団体が公的資格でない動物看護師資格を与えている現況から、統一された公的資格に向かい始めていることは喜ばしいことである。その第一歩として、それぞれの教育機関独自のカリキュラムでなく、統一された共通カリキュラムが必要であり、今後動物看護師を目指す学生や、すでに従事している動物看護師の道標となるものを示す必要がある。本校では2年制の動物看護師コースと3年制のペットスペシャリストコースの2コースで教育を行っている。カリキュラムは日本小動物獣医師会の動物看護師養成認定校であるため、認定試験科目17を中心として、ペット総合関連5科目、その他、大動物看護学、実験動物学、応用動物学を行い、大動物診療所や実験動物施設などの就職先の幅を広めている。しかし、認定試験を見据えた授業が中心となっている。また、実習は学校内の動物病院で、外科・内科・臨床・看護実習を行っているが、病院実習として近隣の動物病院で5日以上行っている。本校の講師はほとんど臨床獣医師が行っているので、学生の学習意欲を高めていると思われる。しかし、これらすべてを教えるためには2~3年と時間的な制約があること、学生の基礎能力の高低差が大きいことが課題ではあるが、最低限の人数の学生を確保することは専門学校に限らず、経営上必要なことなので、解決策はないと思われる。したがって、動物看護師を専門学校で育成するには詰め込み型の教育となり、本来身に着けなければならない“優しい心”を見失わない教育であるべきであり、特化した獣医技術助手を作るのではなく、動物病院では明るく対応のできる人材を育成したいと考えている。人と動物との関係がより良いものとなるために、動物、飼い主、獣医師および動物看護師すべてが幸せになるための、公的資格認定のスタートが切られたものと期待し、専門学校としての教育のあり方、今後の教育カリキュラムの進め方も重要であるが、すでに従事している動物看護師に対する卒後教育の充実も欠かせないものとする。

一般演題（口頭発表） 要旨

シャンプー実施時における犬の血中ストレスマーカーの変動

○船元謙二¹⁾原由乃¹⁾板橋由紀子^{1, 2)}水越美奈⁽¹⁾左向敏紀¹⁾

1)日本獣医生命科学大学 2)株式会社モノリス

【はじめに】

ストレスによって血液中の血球バランスや血中成分濃度、ホルモンなどの値が変化するものがあると考えられている。今回、動物病院などで実際に行われるシャンプー、ドライヤーを用いた乾燥(以下ドライ)を実施するというストレス要因を用いて、CBC や生化学検査、特定のホルモンの値などについて、どのように変化するか調べた。

【材料及び方法】

1) 供試動物は日本獣医生命科学大学で飼育管理されているビーグル犬9頭(全頭雄、体重 8~12kg)を用いた。シャンプー、ドライ時間を 70 分(シャンプー30 分+ドライ 40 分)に設定し、開始 5 分前と終了 5 分後、1 時間後、2 時間後に採血を行い、CBC、ACTH、コルチゾール(以下 COR)の値も測定した。2) 供試動物は同大学で飼育管理されているビーグル犬3頭(雄2頭、雌1頭、体重 11~15kg)を用いて、シャンプー、ドライの時間を 50 分(シャンプー20 分+ドライ30 分)に設定し開始0分から10、30、60、80、100、120、150、180、240、300 分後まで計 11 回の採血を行い、1)で測定した CBC、ACTH、COR に加えて、生化学検査 5 項目(Glu、BUN、T-cho、ALB、ALP)を測定し、TPR を 10、60、120、180、300 分後の 5 回に分けて測定した。

【結果】

1)の実験では、有意に変化したものは、白血球(百分比)、COR、ACTH であった。白血球においては、全頭が2時間前後に増加傾向を示し、百分比では、好中球が増加を示した。COR と ACTH は共に、ストレス後に一時的な増加が見られ、その後すぐにストレス前の値まで減少した。
2)の実験では、1)で見られたような変化に加え、Glu の変化が見られた。Glu では、ストレスによる明らかな上昇が見られ、その後、時間の経過と共に緩やかに下降を示した。

【考察】

ストレスにより、視床下部が刺激され下垂体前葉から ACTH が分泌され、それが副腎皮質に作用し COR も比例して増加した。どちらも一時的な変化であった。またストレスに対応するために血中 Glu が上昇した。さらに、COR の上昇に続いて白血球数の見かけ上の急激な変化が起こると考えられた。
今回の実験より、その個体の正確な情報を得るためには、例えば白血球の場合はストレス負荷後 1 時間までに、ACTH、COR においては、負荷後 1 時間以上あけて必要な検査を行なうようにするべきかもしれない。また、ストレスをかけないようにシャンプー、ドライをするためには、例えば尻尾のほうから水をかけるなど、工夫をする必要があるだろう。

飼い主との絆について

竹中晶子(赤坂動物病院 動物看護師)

はじめに

近年犬と猫を代表とする小動物をペットという呼び方から家族の一員をあらわすコンパニオンアニマルと呼ぶことが定着している。コンパニオンアニマルとは人と動物の間において人獣共通伝染病が明確であり、家族の一員として予防を含む医療を受けることができる動物をさしている。

家族の一員であるがために飼い主が看護に対する求心力ははかりしれないものがある。入院中の食欲や排泄等の状況の把握・飼い主への説明や退院後のマネジメント等を通して飼い主とのコミュニケーションをはかることで飼い主との絆の構築に結びつく。絆が構築され、飼い主に信頼されることの重要性について報告する。

研究目的

コミュニケーションの手段による飼い主との絆の構築について考察する。

研究方法

- 対象： 犬(トイプードル)、雌(避妊済み)、2歳1カ月齢
- 研究期間:2007年8月(導入)から2009年5月まで
- コミュニケーションの手段:写真、電話、FAX

結果および考察

本症例において写真の提示は飼い主も理解しやすく、コミュニケーションをとることが容易にできた。電話については電話をもらった時手術に入っていたり、処置をしていたりしてすぐに電話に出られないケースが多くみられコミュニケーションをとることに時間がかかり、飼い主に不安と時間と手間をかけさせてしまった。

FAX については飼い主とのコミュニケーションがとれやすく、また記録として残すことのできたため、とても有効だった。

飼い主とうまくコミュニケーションがとれれば手段は問わないが、看護師は専門職者として、その場で適切な対応をしなければならぬし、適切な対応を積み重ねていくことで飼い主との絆が構築される。迅速に対応することで看護の目標の達成にも結びつくと考ええる。

まとめ

飼い主は悩みや不安を聞いてくれ、それに対して適切な対応やアドバイスができ、また動物の恐怖心を取り除いてくれ、やさしく接してくれ、動物を介して喜びや悲しみを共有できる存在の動物看護師を求めている。お互いに絆を結び、絆が構築され、看護の目標も達成されるため、飼い主それぞれの性格を理解し、飼い主毎にあった手段で絆を結び、維持することで最良の看護を行うことができると確信した。

おわりに

この飼い主とは現在も FAX でコミュニケーションをとっており、病院内になんでも相談できるスタッフがいることで安心感にもつながっているといわれました。日常の業務を通じて飼い主より信頼をいただき、絆を構築できるかさらに考え、工夫していきたいと思う。

参考文献

- 1)城ヶ端初子 (2008)「難しいなんと言わせない!誰でも分かる看護理論 モトになる考え方から読み解く入門編」 医学芸術社
- 2)長田久雄 (2002)「看護学生のための心理学」 医学書院
- 3)野嶋佐由美 (2000)「ナースによる心のケアハンドブック 現象の理解と介入方法」 照林社
- 4)ジョイス・トラベルビー(1974)「人間対人間の看護」 医学書院

動物看護師のストレスとうつ

北海道大学医学研究科医療システム学分野 木村祐哉

OFFICE AniPro 山内かおり

背景: 一般に医療従事者は過度なストレスに曝されていることが知られており、獣医療に従事する者もまたその例外ではないと考えられる[1]。このような過度のストレス暴露を受けることにより、うつに代表されるような、心身に及ぶ種々の問題が生じる可能性が示唆されているが、演者らの知る限り、動物看護職におけるストレスに関する調査はこれまでに報告されていない。そこで本研究では、動物看護職の中でもうつなどの問題が実在していることを確認し、労働環境などのストレス要因との関連を述べることを目的として、質問紙による調査を試みた。

対象と方法: 本調査は動物看護師を対象とし、2008年10月27日～2009年3月10日に実施した。調査対象者は、動物看護職向けのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)であるAniProを通じてウェブ上のアンケートフォームに回答するように求めるか、それを印刷した物を演者らの知人に配布することによって募集した。質問内容には性別や年齢などのプロフィールを問う項目、想定される19種のストレス因子への暴露の有無を問う項目(表)、産業衛生領域におけるうつのスクリーニングツールとして作成された心と身体健康調査表(STPH)[2]の簡易版であるSTPH-15(カットオフ値7/8点)[3]を含み、さらにその他のストレス因子について自由な記述を求めた。回収された質問紙はまず単純集計し、STPH-15の値に基づいて「うつ群」と「非うつ群」を区別した。さらに、プロフィールやストレス因子への暴露の有無によって、STPH-15の値に差があるかどうか統計学的に解析した。処理には無料で入手可能な統計パッケージであるR version 2.8.1[4]を用い、連続変数の値をとるものはSpearman順位相関係数、離散変数の値をとるものはWilcoxon順位和検定による解析を実施した。なお、回答内容に欠損値(無回答)が含まれるものについては、集計から除外した。

結果: 現役の動物看護師32名の回答が得られた。そのうち欠損値のあった1名を除外すると、女性が30人を占め、男性は1名だった。平均年齢は27.9歳で、未婚者が24名、既婚者は7名だった。勤続年数は平均6.1年、1日の勤務時間は平均10.7時間だった。STPH-15が陽性となり、うつであることが疑われるのは31名中25名だった(80.6%)。統計学的解析では、STPH-15の値は年齢、勤続年数、勤務時間との間に相関を認めず、既婚者は未婚者よりも有意に陽性者が多かった($P=0.03$)。その他には、現在の自分が理想の動物看護師像そのものであると感じられなければ、STPH-15の得点が高かった($P=0.01$)。自由記述では、ストレスの原因として将来への不安、家庭生活との両立の困難、同僚との接し方に関する悩みなどが挙げられた。

考察: STPH-15を用いることにより、調査対象に偏りのある恐れはあるものの、うつに悩む動物看護師が確かに存在することが示唆された。こうしたうつの傾向は、結婚している、あるいは動物看護師としての理想と現実には差異のある者に強く表れていることが明らかになった。自由記述からの示唆も踏まえると、将来性も考慮に入れた労働条件やワーク・ライフ・バランスの改善は、動物病院経営における今後の大きな課題となるであろう。また、理想と現実との差異は、ある面においては雇用者-被雇用者間で動物看護に対する認識が異なることに起因していると考えられ、旧来の就職活動における両者のマッチングの不備を示唆するものである。こうした点については、動物看護師を養成する側からも対策を考慮していく必要があるであろう。

今後の展望: 本調査において検討したストレス因子は探索的研究によって導き出されたものではなく、未だ不十分と考えるべきであり、より適切な因子を抽出するための質的な研究が求められるであろう。その上で、対象の偏りがないように配慮した拡大調査を進め、動物看護職における労働条件の改善に取り組むことが重要である。

表 候補としたストレス因子

Q1.業務の中に得意なものがある
Q2.勤務時間内に食事する余裕がある
Q3.休暇は足りている
Q4.現在の給与は自分の能力に対して正当な額だと思う
Q5.セミナーや学会に参加する機会がある
Q6.診療について、同僚からいろいろ教えてもらえる
Q7.適度な責任を課されている
Q8.就職前に受けた教育とのギャップは気にならない
Q9.オーナーとのコミュニケーションを苦痛とは思わない
Q10.治療費や経費の話をするのは、特に苦ではない
Q11.本来の業務以外の雑用はそれほど多くない
Q12.院内の人間関係は良好だ
Q13.人手は足りている
Q14.現在の自分は、思い描いていた動物看護師像そのものだ
Q15.この仕事を続けていく自信がある
Q16.産休が取れる
Q17.レントゲンで被爆しないように対策がとられている
Q18.日常の勤務の中でセクハラと感ずることはない
Q19.職場の環境(温度、換気、光量など)は良い

引用文献:

- [1] DH Gardner, D Hini(2006)Work-related stress in the veterinary profession in New Zealand, New Zealand Veterinary Journal, 54(3) :119-124:New Zealand Veterinary Association.
- [2] 木村拓磨, 松田史帆, 芦原睦(2008)心と身体健康調査表 (Screening Test of Psychosomatic Health:STPH-21) の信頼性と妥当性の検討, 日本心療内科学会誌, 12:69-75:日本心療内科学会.
- [3] 芦原睦(2007)最近 ブルーじゃないですか?, ヘルシーなごや, 38:名古屋市医師会.
- [4] The R Project for Statistical Computing(<http://www.r-project.org/>). *日本語では RjpWiki 参照 (<http://www.okada.jp.org/RWiki/>).

動物看護に家族カルテを導入した取り組み

小嶋未来¹ 小嶋孝代² 松原孝子³ 小嶋佳彦⁴

1. 4. 小島動物病院アニマルウェルネスセンター
2. 小嶋孝代 心理相談室 3. 一般社団法人 日本動物看護職協会

1. はじめに

人の看護では、家族は患者の背景として扱われてきたが、1970 年代頃より家族を看護の対象とする家族看護学が誕生した。その背景には、社会情勢や家族観の変化に伴い、看護の対象や看護の概念の広がり、そして看護のニーズが多様となり家族も看護が介入される対象となった。

一方、動物看護では、その動物への看護を提供するにあたり、飼い主(家族)と動物看護職との関係がその動物への看護を左右し、動物だけではなく飼い主に対してもケアを行う必要があることは周知の事実である。動物の看護と同時に飼い主を理解し、家族の全体像を捉えることで、動物看護に対するニーズに応え、質を高めることができる。動物のライフステージと飼い主の立場や環境の変化を理解しながら動物看護を発展させなければならない。また、その看護実践の結果は病院スタッフで評価し、今後の動物看護に反映させる必要がある。そのためには、病院スタッフの共通認識としての情報源であるカルテが重要な役割を果たすと考えられる。小島動物病院アニマルウェルネスセンターは開業 30 年を迎え、飼い主と動物そして動物病院との関係をより密接にし、将来の病院運営の基盤づくりを目的としてカルテの改正作業を行った。

2. 材料と方法

当院オリジナルカルテを作成した。その種類は家族カルテ、犬カルテ、猫カルテの 3 種類、および犬猫共通の追加カルテである。使用期間は 2007 年 12 月～2009 年 6 月現在までである。家族カルテは飼い主を中心とした情報を記入する。表面は氏名、住所、電話番号や職業等の基本情報と過去に来院した動物の飼育歴など、裏面は病院スタッフが飼い主から得た個人的な情報を記入する。このカルテは現在飼育している動物が死亡した後も永久的に残る。犬と猫のカルテは、従来のカルテでは兼用であったが、犬と猫ではワクチンの種類やウイルスの検査などが異なるため、それぞれに合わせて必要な項目を追加した。そのほか共通項目として動物の写真を張るスペースや、マイクロチップ No.、動物保険の証券 No.、看護記録、検査内容記録、ダイレクトメール記録、グルーミングやしつけなどさまざまな情報を記入する欄を加えた。追加カルテは記載する内容が多い項目のスペースを広めにとった。

3. 結果と考察

3 種類のオリジナルカルテ(家族、犬、猫)を使用した結果、情報の聞き漏らしが減少し、スタッフ全員がカルテを通じて意思の統一を図ることが可能になりつつある。結果として飼い主との会話が円滑になり、動物の健康管理にも役立つ。場合によっては、飼い主の心のケアに貢献できる可能性もある。また、カルテの記載にあたり、その事前情報として初診質問表の記入と問診を含む会話が重要な役割を果たす。今後は家族カルテを導入した家族が増えることによりその機能が発揮でき、病院の運営に役立つと考えられる。それは現在のスタッフと将来勤務するスタッフにとっても有益な情報源となり、飼い主家族の全体像が把握でき、結果として各家庭に合わせたよりよい看護が期待できる。

<引用文献>

- 1.小嶋孝代・小嶋佳彦(1997)「ヒトとイヌ・ネコ(伴侶動物)との関わりーアンケート調査の結果ー」『ヒトと動物の関係学会誌』Vol.2 No.2,P96~99,人と動物の関係学会
- 2.鈴木和子・渡辺裕子(2007)『家族看護学 理論と実践 第3版』日本看護協会出版会

動物看護師勉強会『十勝 VTeam』の発足と活動報告

にれの木動物病院 北口 倫子 ・ 帯広畜産大学動物医療センター 田村 浩美

〈はじめに〉

近年動物看護師における職域の確立や、国家資格に向けての動きが活発になってきている。先日、日本動物看護職協会が発足したことは記憶に新しい。動物看護職とはどのようなものかを個々が意識し知識や技能のレベルアップが必要といえる。しかしながら、地方の動物看護師にとって、セミナーに行くこと自体が時間的にも経済的にも難しいうえに、北海道で行われるセミナーの数自体が非常に少ない。以上のことから、自分たちで何かできることはないかと考え行動した結果、動物看護師勉強会『十勝 VTeam』を立ち上げることができたので、ここに報告する。

〈動機と経過〉

一昨年に帯広市で行われた4ヶ月間に渡る企業セミナーに30名程の動物看護師が集まったのを見たとき、勉強したいと意欲のある動物看護師の多さに驚いた。それと同時に、言葉を交わすことなく帰っていく状況に残念さを感じた。もしも自分たちの手で勉強会を開くことができ、他院の動物看護師と交流ができれば素晴らしいことではないかと考えるようになった。全ての企業セミナー終了後に動物看護師勉強会の参加を呼びかけたところ、20名が参加を希望した。2007年12月15日に勉強会を立ち上げ、十勝管内の各開業動物病院へ封書でその旨を報告した。翌月からほぼ月に1度のペースで勉強会を行っている。勉強会後に座談会を設け、それぞれの病院でどういふことを工夫して仕事を行っているのか、またこの症例のときの看護はどうしているのか、などを話し合ったりする時間を設けて交流を図っている。

〈参加メンバー〉

2009年6月現在、11病院25名(すべて女性)の動物看護師が参加している。年齢は18～34歳、今年入った新人の方から13年目の方まで勤務経験には大きな差がある。また動物看護師兼トリマーの方、既婚者、更には子育てをしながら勤務している方など様々な環境の看護師が集まっている。一般開業病院の動物看護師と、大学病院の動物看護師が在籍するのも大きな特徴と言える。発足1年が経過し、メンバー内でアンケート調査を行った。その結果、参加者の大半が勉強会に関して、肯定的な意見を述べていた。中でも、他院の動物看護師と交流が持てたことが良かった点として挙げる方が特に多かった。それぞれの悩みや不安を、同じ動物看護師だからこそ理解し合うことができ、今後はこれらの結果を次に繋げていくことが課題として挙げられる。

〈考察〉

地方で働く動物看護師がセミナーに参加することは時に困難である。しかし十勝 VTeam を立ち上げ他院の意見を聴くだけでも十分勉強になり、刺激を受けることがわかった。また、協力して下さる獣医師、企業の方々、多くの存在に心から感謝をしている。受身の立場を脱し、自分たちで立ち上がる時が来たのだということを、この勉強会を通してアピールしていきたい。そうすることで、他地域の動物看護師と良い刺激を与えあうことができるのではないかと考えている。

飼い鳥の食餌について

横浜小鳥の病院

小沢知美

現在飼い鳥の食餌は、ヒエ、アワ、キビおよびカナリーシードなど、数種類の穀物を混合した皮付き餌を主食とするのが一般的である。しかし、皮付き餌には飼い鳥の栄養要求量を満たすだけの必須アミノ酸やビタミン、ミネラルが含まれていない。また、飼い鳥が穀物を寄り好みして、バランスよく食べないといった欠点もある。

海外、特にアメリカにおいては、総合栄養食であるペレットが開発され使用されている。ペレットとは固形飼料のことで、犬で言うドッグフードと同じである。とうもろこしや大豆、小麦等を主原料とし、飼い鳥に必要な栄養をバランスよく配合している。近年ペレットは飼い鳥に対する食餌改善を試み、アメリカやオーストラリアから輸入され、主食として与えるように推奨するようになった。しかし今まで皮付餌を与えてきた飼い鳥に対しペレットを与えても、食餌として認識しない場合が多い。そこで今回、日本で市販されている代表的なペレットの種類や特徴、また個々の飼い鳥の性格に合わせたペレットの選び方を飼い主に提案し、実際に皮付き餌からペレットを主食に移行させる事の出来た二例を報告する。

(一例) ブンチョウ 3ヶ月齢。挿し餌から一人餌に切り替わる時に、皮付き餌を中心に与えていた。この個体はまだ幼鳥だった為、鳥類の習性である拾い食いを利用して、直径1～2mm程の小粒のペレット2種類 ZuPreem 社ナチュラル・フィンチと HARRISON 'S 社 SuperFine を床に撒いた。すると興味を示してついばむ様子が見られた。しかし体重を維持出来る程の量は食べていなかった。次に粉末状の HARRISON' S 社 MASH を与えた。始めは MASH の中に混在する穀物を選び好みして食べていたが、徐々に均等に食べるようになり、MASH を主食にする事が出来た。

(二例) アオビタイアカオウロコインコ 1歳齢。幼鳥時より慢性的に筋胃での餌のすり潰しが出来ない為、皮付餌を食べると未消化便を排出してしまう。少しでも筋胃に負担をかけないようにペレット ZuPreem 社ナチュラル・オカメを推奨した。最初はペレットに興味を示して砕く様子はあったが、十分な量は食べていない。そこでペレットの入ったエサ入れを1カ所だけではなく2カ所に設置し、ケージ内を移動するとペレットの入ったエサ入れの方がより近くなるようにした。するとペレットを食べる回数が増え、主食に切り替える事が出来た。

今回の食餌の指導により、飼い主が多種多様に製造されているペレットのうち、どの商品を選べばよいか、それぞれの特徴は何かなど分からない場合が多く見受けられた。また馴染みの少ないペレットを使用するうえで、ペレット自体の購入先や保存方法も指導する必要もある。今後も食餌の重要性を動物看護師として飼い主に指導していきたい。

腫瘍診療において動物看護師が作成した治療経過記録の成果

カニエ動物クリニック 三輪教子

【背景と目的】医療界では、医師、看護師など患者に直接医療を提供する「アクティブ・ケア・チーム」、臨床心理士など心のケアを担当する「ベース・サポート・チーム」、製薬メーカーやマスメディアなど患者ががん医療についての知識を得て、治療体験を報告する役割を担う「コミュニティ・リソース」という三要素が連携し、がん治療チームを構成している。一方、獣医療界では腫瘍科認定医制度が設立され腫瘍診療に対する獣医師の専門性は高められているが、医療界の様なチーム構成を持つのは難しい。そこで当院では、獣医療独自のがん治療チームの確立を目指し、腫瘍専門医の指導の下、①がんの力、②動物の力、③飼い主の力、④医療の力の「治療を左右する4つの力」という概念を持ち治療にあたっている(図1)。今回、動物看護師が治療経過記録を作成したことで腫瘍診療においてどのような役割を果たすことが出来るのかを考察した。

「治療を左右する4つの力」

- ①がんの力 ……増殖力、浸潤・転移力
- ②動物の力 ……体力、免疫力、陽気な性格
- ③飼い主の力…愛情の深さ、経済力、治療の理解力、生死感、陽気な性格
- ④医療の力 ……キャリア(内科/外科)、放射線ができる、スタッフ力・人脈、情熱・胆力・総合判断力、インフォームド・コンセント力

図1

【方法】がん罹患動物に対し、治療経過記録のフォーマットを作成した。

日付、治療内容、治療の反応・状態、検査結果、その他の問題点、オーナー備考の記録項目を設けた。

【結果】治療経過記録のフォーマットを作成し利用したことで記録として残せるものに仕上がりと、飼い主と一緒にこの治療経過記録を見ながらこれまでの治療成果についての話をすることができた。時系列に沿った記入により経過の把握が短時間でできるようになった。そして、治療内容、治療の反応・状態、検査結果、その他の問題点という項目で分けた記録は、一連の治療経過や血液検査データの整理を可能にした。また、オーナー備考欄を設けたことで患者の病状だけでなく飼い主の気持ちにも注意が向くようになった。

【考察】当院が目指すがん治療チームは、飼い主の力と医療の力が動物の力を囲むように構成され、この医療の力の中には腫瘍専門医、獣医師、動物看護師が含まれる。そして飼い主、専門医、獣医師の結びつきを強める役割を担っているのがスタッフ力としての動物看護師であると考えられる。この治療経過記録を作成するまでは「腫瘍診療こそ獣医師主体で行われたほうがいいのか」という受け身の姿勢で診療に臨んでいたが、治療経過記録を作成したことで動物看護師としてチームに参加しているという自覚が芽生え、飼い主とのコミュニケーションも積極的に行うことが出来た。このように患者だけでなく飼い主にも目を向けた治療経過記録の作成は、飼い主と専門医、獣医師の関係を深め、治療の情報整理という一面だけではなく、がん治療チームの中での動物看護師の役割拡張においても成果をあげるものになると考えられた。

終末期看護における倫理的ジレンマ～舌癌患者の長期入院を通して～

王寺動物病院 動物看護師 山崎 州子

はじめに

動物医療は伴侶動物を中心として展開され、看護は伴侶動物を取り巻く人々により実践されるが治療の決定権と伴侶動物のQOLは飼い主に委ねられている。終末期看護の際に、飼い主・獣医師・動物看護師間に生じた倫理的ジレンマを明らかにし、今後の終末期看護の質の向上につなげたい。

症例紹介

ラブラドルレトリバー、雄(未去勢)、16歳、穏やかで人好きな性格であり、飼い主が家族で経営する会社で飼われていた。既往歴:直腸腫瘍、拡張型心筋症、現病歴:舌の扁平上皮癌、下痢

伴侶動物を取り巻く人々の心理

<入院当初>

飼い主は、在宅看護より入院看護の方が最善であると考えていた。自力歩行と自力採食が不可の間は、入院看護を希望した。また、辛い姿は見たくないが出来るだけのことをして欲しいと要望しており、急変時は心肺蘇生の実施を希望した。

獣医師は、飼い主の意向に沿い入院にて緩和治療を行う事とした。

<入院中>

飼い主とのやり取りは、獣医師が代表となり主に電話にて行なっていた。

入院中に飼い主は面会に訪れず、積極的に動物に関与する様子が見られないように感じた。そのため、担当動物看護師は、飼い主とのコミュニケーションを取ろうと模索するも難しかった。口元へ食餌を持っていく事以外は日常生活に支障がない為、一部のスタッフは、在宅看護が最良ではないかと考えた。(事象1)

担当動物看護師は、飼い主が在宅看護しやすいよう病院側がサポート体制を整える事で、動物が在宅看護を受けられるのではないかと考え、獣医師に提案した。獣医師は、在宅看護における飼い主の心理的・肉体的負担を懸念しつつ飼い主へ提案を行った。スタッフの中には「飼い主の入院看護が最善である」という意向に沿うことが良いのではないかと「飼い主の諸事情を踏まえ在宅看護の受け入れは難しい」などの意見があった。飼い主は、獣医師からの提案を受けるも、入院当初の考えに変わりはなく、継続入院を希望した。(事象2)

<在宅看護提案後の継続入院中>

担当動物看護師は、飼い主に面会に来てもらうよう提案した。飼い主は、病院側からの要望には迅速に対応した。面会時は、動物を眺めており自ら動物に触れることは無かった。スタッフとの会話中に涙を流すこともあった。(事象3)

担当動物看護師は、終末期の動物のQOLの向上を考え一時帰宅を提案した。獣医師は、飼い主とのやりとりや面会時の印象などから実施には消極的だった。スタッフ間の話し合いでは「在宅看護を受け入れられないことが愛情がないということではない」「長期間の入院費用を支払うという金銭的な支援も動物への愛情ではないか」「環境の変化は動物の身体に影響するのではないか」「飼い主の心理的負担ではないか」などの意見が出た。(事象4)

飼い主に一時帰宅を提案すると「あの子も歩き慣れた道を散歩したいのではないかと思っていた」と涙を浮かべながら話した。家族と話し合った結果、一時帰宅の提案に対し賛同した。スタッフの協力もあり一時帰宅を実施。飼い主と動物は共に歩き慣れた道を散歩でき、嬉しそうな様子だった。飼い主は、有意義な時間を過ごせたと話し、涙を浮かべる家族もいた。(事象5)

考察

事象1では、飼い主とスタッフの考えにズレが生じた。事象2で、担当動物看護師は飼い主に対し不安と不信を募らせていった。また飼い主と話す機会がほとんど無く、飼い主の印象に対して先入観を持っていた。事象3・事象4・事象5では、飼い主の動物への愛情を表現する方法は1つではないと知り、何事も先入観を持てはいけなさと感じ、看護の際は飼い主の真の想いを理解する努力が必要であると分かった。

この動物の終末期看護について動物看護師・獣医師の双方から様々な意見が出た。動物を看護する際、そこに関わるすべての者にはそれぞれの想いや考え方があり、意見は様々である。自身の死生観に対し、他者の価値観がぶつかることで倫理的ジレンマが生じ、このジレンマは看護に関わる人数が多いほどより多く生じると考える。

終末期における緩和治療の際、根治が不可能であるがために、なおいつそう倫理的ジレンマが生じやすくなると言えるだろう。しかし、たとえ自身の考えが他者の意見と相違していても、様々な提案や話し合いを繰り返し、違った視点からの見解を知ることで、よりよい看護につながり、なんらかの成果を上げることができる。本症例においては、在宅看護を望まない飼い主に、動物のQOLの向上を目指し、担当者を中心としたスタッフ全員が自身の意見を主張し、諦めず話し合ったことで、一時帰宅という手段を飼い主に提案し、実施できたことがその成果と言えるだろう。

そして、スタッフと飼い主の動物を想う気持ちが重なったからこそ、飼い主は涙を流したのではないだろうか。これも成果の一つと考えている。

まとめ

看護は知と技と心をもって行うものである¹⁾。メイヤロフは「誰かをケアするためには、私は多くのことを知る必要がある。そして、その人の要求にどのようにこたえるのか、私自身の力と限界がどのくらいなのかを私は知らねばならない。」²⁾と述べている。よりよい看護を行なうためには常に何が最善かを考え続ける必要がある。しかし、それぞれが考える最善の方法が必ずしも実施できるとは限らない。その限界との間にもジレンマは生じる。その際、飼い主も含めた医療チームが話しあう事で実践できる看護の幅が広がる。こうした努力と積み重ねにより看護の質は向上するのである。

引用参考文献

- 1) 小西恵美子:看護倫理 南江堂
- 2) メイヤロフM/田村真・向野宣之訳:ケアの本質 p34・p35

当院における周術期体温管理

みずほ台動物病院 小嶋哲也

はじめに

周術期体温管理が人医療において盛んに研究され、その重要性が明らかになっている。同様に動物医療でも重要性が認識され、多くの動物病院では動物看護師がその管理の中心となっている。周術期の体温管理を行うことは、麻酔リスクの軽減や、術後の治癒過程を良好に保つのに役立っている。本稿では動物看護師の行っている周術期(術前～術中～術後)の体温管理について報告する。

測定部位

体温には末梢温と中枢温がある。末梢温は体の外側である皮膚の温度を指し、中枢温は体温調節中枢である視床下部を循環している血液の温度とされている。周術期のモニタリングは正確性の点から中枢温が推奨され、当院では食道温や直腸温をモニタリングしている。

測定方法

● 食道温

食道は解剖学的に肺動脈、大動脈に近く、これらの血液温の影響を受けるため中枢温として信頼できる。特に食道下 3 分の1にあたる下部食道(心房付近)が中枢温としてよい値を示す。また肺動脈、大動脈の影響を受けているため急激な体温の変化にも比較的速く対応することが可能であるため、優先的に食道温をする。ただし胃内異物摘出などの上部消化管内視鏡処置時では測定部位として不適當であるため直腸温を測定する。

● 直腸温

直腸温は骨盤腔内の臓器の温度を測定するため、プローブ先端を骨盤腔内まで挿入する必要がある。大型犬では7～8cm、猫などの小型動物でも3～4cm程度必要である。直腸は下肢からの血流の影響を受けやすく、開腹手術や腹腔内洗浄を行う場合測定値に誤差が生じる可能性がある。また、便中にプローブを挿入してしまうと測定値に影響を及ぼすことがある。醗酵していると高値になり、下痢などで腸通過時間が短いと低値になる。さらに腸内ガスが貯留している箇所にはプローブ先端部があると気体の伝導率が悪くなり低く測定されてしまうことがある。

手術中の体温変化

実際に手術中に起きる体温変化として体温低下が多く見られる。

低下の主な要因としては、

- 周術期においては各麻酔薬の投与により体温調節機構が障害されるため。
- 体と直接接している手術台との間で熱の交換が行われるため。
- 開腹術や開胸術などの術野として開かれた体腔内の水分が気化するときに気化熱として熱が奪われるため。
- 手術室内の冷房のため
- 輸液製剤や腹腔洗浄液の温度が低いため。
- 再分布性低体温のため。(全身麻酔導入に伴い末梢血管が拡張し、中枢に集中していた熱が血流に乗って末梢組織まで移動する。その後末梢に移動した熱が身体外部との温度差により体外に逃

げていく。全身麻酔導入後 1 時間前後で、体温が 0.5～2℃近く急速に低下するのはこのためである。)などが挙げられる。

術前体温管理

全身麻酔導入 1 時間前より温風式加温装置にて加温を行い、末梢温を上げておくことで全身麻酔導入後に起きる再分布性低体温を防ぐことが出来ると人医療で報告されているため、当院においても室温調節機能付きのケージにて加温を行い再分布性低体温の予防に努めている。

術中体温管理

手術室温を上げれば動物の体温低下をある程度防ぐことができるが、術衣を着た術者自身が暑いと感じ手術に集中できなくなる恐れがあるため、当院では手術室室温を 23℃付近で管理している。

- 全身麻酔導入後、赤外線ランプと電気式温床マットにて加温を行う。
- 術創部消毒時には消毒液を 37℃程度に加温する。さらに、術創部の周りをタオルなどで囲み術創部からこぼれ落ちる消毒液で被毛を濡らさないようにする。
- 手術中、体表からの熱放散を防ぐために、手術用ドレープで体表を被う。
- 湯たんぽによる加温を行う(40℃以上に温めると加温部位が低温火傷になる恐れがあるため、温度は 40℃までとし、タオルを巻いて使用する。効果的に加温するために、内股・脇・頸部など血管が多く存在する部位に使用する。)
- 輸液剤を加温する。留置針が設置されている部位にタオルで包んだ 38℃の湯たんぽを巻きつけ輸液剤を加温している。

術後体温管理

手術終了後体温低下が見られる場合は覚醒まで手術室温を上げる。

さらに、ドライヤーにて体表を加温する。この際ドライヤーと動物との距離が近いと温風による低温火傷の恐れがあるため、タオルなどで動物を被い50cm以上距離をおいて使用する。

覚醒後一般病棟に移動した後、室温調節機能付きケージと床暖房にて加温する。

考察

体温低下が起きると 35℃以下で震えによる熱産生が行えなくなり、34℃以下で体表の血管が収縮し血流量が減少しているため、加温剤と体との接触部位に低温火傷が起こりやすくなる可能性がある。さらに 31℃以下で体温調節機能が停止し、28℃以下で肺呼吸機能の著しい低下が起こると報告されている。また、体温低下は術後感染率の増加、震えによる酸素消費量の増加に伴う低酸素血症や術創部の痛みの増加、さらに麻酔覚醒時間延長なども考えられる。

当院において、獣医師は手術に専任し、動物看護師が手術以外の管理を行っている。

動物の体温管理も一任されているため今後さらに周術期前後のデータを集め、検討を加える必要があると感じた。

引用文献

高野徳孝 発熱・低体温を企画するにあたって SAメディスン 18

鈴木正大・新井豊久 編 日本麻酔学会 安全な麻酔のためのモニター指針ガイドブック

尾崎眞 手術患者の体温管理

脛骨腓骨骨折をした猫の看護の1例

猪野 麻由花（帝京科学大学・駒沢どうぶつ病院）、
村中志朗（広尾動物病院）、桜井富士朗（帝京科学大学）

【序論】

骨折とは骨又は軟骨組織の連続性が2つの部分またはそれ以上に断たれた状態をいう。骨折の治療は、整復、固定、後治療の段階に分けられ、看護では、固定を確実にするために動物の運動を制限し、ケージレストで安静にさせることが第一であり、その他の看護として、環境の調整、栄養管理、術創の管理、感染防止、疼痛の管理、不安・ストレスの緩和などが挙げられる。猫の骨折の原因として、先天的な代謝系を除けば事故や転落がほとんどである。その部位も骨盤、四肢の橈尺骨に多く視られる。

本研究は、一次医療の動物病院で手術可能となる四肢の骨折の、より良い看護方法や工夫を明らかにするために1例に集中して看護を実践した。

【材料(症例)と方法】

症例は猫(MIX)、去勢雄、1歳。入院期間は平成20年7月10日～7月30日、8月9日～8月13日、10月5日～10月17日。診断名は脛骨腓骨遠位端および、第2,3中足骨骨折。方法として、患者の問題点、目標(以下①～⑤)をきめ看護計画を立案する。それに従い実践、観察項目のチェックをし、看護記録をつける。最後に考察を行った。

1)看護の問題点

①肢端の血行が悪く腫脹が著しい。またギプスができない。②血行不良による治癒遅延(骨の再生遅延、皮膚癒着遅延)がある。③処置やケージレスト、エリザベスカラーにより生じるストレスがある。④傷口開放であるため、様々な刺激を与えてしまうことにより二次感染を起こす可能性がある。⑤転落の原因が、飼い主の飼育管理による事故の為、再度事故が起こる可能性がある。

2)看護目標

①血行不良を改善させ、腫脹をなくし骨が正しく形成されるように、治癒を促進させる。②長期治療により起こり得る危険を防止し、完治させる。③入院中の苦痛、不安を軽減できる。④二次感染を起こさず入院生活を送れる。⑤飼い主に二度と同じことが起こらないよう危険性を理解していただく。

3)基本的な看護計画

- ・ チェック項目を朝・昼・夕で観察し、気になる点を獣医師に報告する。
- ・ 食事、排泄、ケージ内での体勢の補助。
- ・ 二次感染防止(エリザベスカラー作製、掃除)
- ・ ストレス軽減のために患者の好む頭、耳をマッサージしリラックスできるようにする。

【実践・結果】

問題①の結果では、術後27日後に中足骨、術後41日後に脛骨腓骨の癒着をレントゲンで確認した。歩行の際に患肢に負重もみられ、骨は完治したといえた。腫脹は術後8日目くらいから引き始め、血行がほぼ改善されたために術創も通常よりは遅いが癒着した。マッサージにより血行不良が改善され、通常より少し再生は遅いが骨の癒着がしっかり認められたことにより、目標①は達成したといえる。次に問題②の

結果として、まず再骨折防止対策をし、骨の再生は順調で、骨癒着成功した。また縫合部が裂けることの防止対策を行い、一回目の手術後、皮膚癒着し退院した。しかし、術創が開き入院、二回目退院あとの術後 65 日に潰瘍ができ、プレート除去を行った。その後、皮膚癒着は成功した。皮膚に関しては反省点が多かったので一部目標達成したと言える。問題③の結果として、環境管理、安全な保定、補助については確実に実践でき余計なストレスが軽減されたと思う。面会ではスキンシップやおもちゃお菓子の差し入れなどにより患者はリラックスした表情を多く見せていた為、比較的ストレスが緩和された入院生活だった。目標達成と言える。問題④の結果では、二次感染を起こさず入院生活を送ることが出来た。最後に問題⑤の結果として、患者は、外出時にはキャリーケースにいれることなく飼い主に抱きかかえられており、また普段からバルコニーには出入り自由な状態で生活をしていたが、キャリーケースの使用、バルコニーへの出入り禁止を約束していただくことに成功した。注意点など理解していただけなかった点もあったため、一部目標達成したと言える。

【考察・結論】

日々変化する動物の状態にあったエリザベスカラーの選択が重要だということがわかった。エリザベスカラーは多岐にわたり使用されるので、患者の状態に適すよう、サイズや素材選びは慎重に行うべきであると思われる。また飼い主への指導、説明不足とならないよう、工夫が重要だということがわかった。これらは間接的な看護となるのでより具体的にアドバイスをしなければ守ってもらえないと感じ、生活環境など個人に合った対応をして随時サポートしていかなければならないと思われる。その方法として、紙に注意事項を書いて渡す、時々電話を入れて状態を確認するなどが考えられるが、飼い主の教育に関しての工夫も同時に充実させ、解決策を日々の看護業務を通して考えていくことが課題となった。

【謝辞】

本研究にご協力くださった村中志朗先生、広尾動物病院のスタッフの皆様、研究室の櫻井富士朗先生に厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

- ・木全春生 著:新動物外科学、地球社
- ・森祐司、竹内ゆかり 著:動物看護のための動物行動学、日本小動物獣医師会動物看護師委員会
- ・森祐司、Karen L.Overall 著:動物行動学 イヌ・ネコの問題行動治療指針、チクサン出版社
- ・瀬戸晴代(2002):骨延長手術後の看護と退院時の飼い主指導、アニマルナーシング Vol7-2:p14-18
- ・樋口雅仁(2004):大腿骨、脛骨の癒合不全および癒合遷延、SURGEON、No47:p44-67、インターズー

ダックスフンドの椎間板ヘルニア 6 症例の検討

長野早紀子(ウェスト動物病院・帝京科学大学)、栗野悟(動物病院モルム)、
桜井富士朗(帝京科学大学)

序論

ジャパンケネルクラブ(JKC)の犬種別犬籍登録頭数によると過去 10 年間ダックスフンドが 1 位を独占している。ダックスフンドは胴長短足という特徴をもち、これは髄核が変形しやすく椎間板が脆い『軟骨異栄養犬種』の特徴でもある。また、ほとんどが室内飼育犬であり、肥満になりやすい。肥満になると脊髄への負担が大きくなり、そこに無理な力が加わるため、椎間板を傷めやすくなる。この 2 つの特徴から、ダックスフンドは椎間板ヘルニアになりやすい犬種であると考えられる。

そこで、現在の人気犬種、ダックスフンドの好発疾病である椎間板ヘルニアの実態を調査した。

材料と方法

面接方式にて、各症例について動物病院のスタッフに個体情報、症状、入院時の看護、飼い主への指導などの質問に答えてもらった。対象症例は『外科手術を受けた腰部椎間板ヘルニアのダックスフンド』とし、6 症例(10 歳♀グレード 3、11 歳♂グレード 3、3 歳♀グレード 4、11 歳♂グレード 5、4 歳♀グレード 3、5 歳♂グレード 4)を 2 箇所の動物病院にて集めた。

そして、来院時と退院時(術後 10 日経過時)の動物の歩行・排泄・再発の状態についてまとめた。

結果

＜歩行＞

椎間板ヘルニアの重篤度から歩行の状態を抽出し作成した評価表(歩行スコア)により、来院時と退院時の歩行の状態を比較した。

全ての症例において歩行の改善が見られた。しかし、2 症例においては歩行スコア 4(姿勢は維持できるが歩行不可)までの改善しか見られなかった。

＜排泄＞

来院時 3 症例は自力排泄が出来なかった。しかし、退院時には全ての症例が自力排泄可となった。

＜再発＞

6 症例中 2 症例で数ヵ月後に別の箇所での再発が確認された。

考察

今回の結果より、外科手術によって動物の症状は改善することがわかった。しかし、正常な状態までの回復は難しく、再発の可能性もあると言える。これらのことより、退院後も家庭での注意やリハビリが必要であると考えられる。また、今回はなかったが退院後も自力排泄が負荷である場合、家庭での圧迫排尿や導尿の必要性がある為、飼い主の負荷が大きくなると考えられる。

結論

椎間板ヘルニアは一旦発症してしまうと動物にも飼い主にも負担がかかる。その負担は治療によって軽減出来るが、全く負担をなくす事は不可能である。また、検査や治療にかかる費用も決して安くはない。やはり、発症させないようにすること、予防が最も大事である。

予防は最も安全で安価な治療である。多くの飼い主に予防を心がけてもらえるよう、まず『ダックスフン

ド＝椎間板ヘルニアになりやすい犬種』という事を知ってもらい、その上で、どんな事に注意したら良いのか、またもし発症した場合どんな症状が起きるのかについても知ってもらうという『情報の提供』が大切なのである。

謝辞

本研究に御協力いただいた動物病院のスタッフの皆様、ご指導いただいた栗野悟先生、桜井富士朗先生に感謝いたします。

引用文献

- Interzoo リーダーズ CLUB セミナー『犬や猫におけるリハビリテーション医療の実際』資料
- animal specialist 2006.1,2007.7,2008.1,3,4,5,10
- CLINIC NOTE 2007 年 7 月号,No.23
- 原田恭治「脊髄損傷症例に対する術後リハビリテーション」SURGEON、2007,Jan-Feb,No.61,Vol.1
- リハビリテーションと理学療法
- Animal Nurse 2003 December
- DACHS STYLE Vol.5,9,10,12

一時的気管造瘻術・永続的気管造瘻術の看護事例

王寺動物病院 動物看護師 崎山 法子

【要約】

呼吸器疾患を伴う動物に、他の疾患によりやむを得ない手術を施したが、術後の呼吸状態の悪化を認めたため、救済的処置として一時的気管造瘻術・永続的気管造瘻術を施した。

【キーワード】 気管造瘻術・加湿・看護

【はじめに】

遭遇することの少ない症例である気管造瘻術の看護は、呼吸・分泌物の吸引の管理、一般状態の管理も含め細やかなケアが要求される。当院では気管造瘻術の患者のための加湿器などは配置してはいない。その中で、できる限りの工夫をこらし、看護を行ったことについて、共有を図りたいと考えた。

【看護の実際】

気管造瘻術後の看護は、呼吸状態を含めた十分な観察と加湿、気道の分泌物の管理を中心に行った。また、飼い主に対し十分なインフォームドコンセントを必要とした。

観察は、呼吸の状態や回数、気道を閉鎖している原因がないかを中心に頻回に行った。

加湿に関して、加湿器や人工鼻などの機材がないため、犬舎のスノコの下にヒーターを敷き、その上に濡れたタオルを敷いた。そして、スノコを乗せ、犬舎の扉には濡れたバスタオルをかけ、定期的に犬舎内及びタオルなどに霧吹きで水を散布した。動物の体温が安定しない場合は、ヒーターで動物を保温し、霧の水で体が濡れないよう配慮した。

気道の分泌物は、一時的気管造瘻術の場合、気管チューブ内に生理食塩液を少量流し、気道を湿らせ痰や分泌物を出させるように促し、排出された物質を除去した。除去が困難な場合は吸引器を用いて除去を試みた。永続的気管造瘻術は、痰や分泌物の除去を容易にするために造瘻部の周辺にワセリンを塗布し、分泌物が造瘻部を塞がないようにこまめな清拭を行った。一時的気管造瘻術の創は包帯で保護し、永続的気管造瘻術の場合は、開放創とした。

飼い主には刻一刻と変化する動物の状態と様相を十分に説明し、退院後の生活の注意点と、造瘻部の定期的な剪毛と清拭が必要不可欠であり、外出時はマスクの使用などを促し話し合った。

【おわりに】

看護を実践するにあたり、特殊な機材がなくても、看護を行う対象への愛情と少しの工夫で、成書に記されている内容に近い看護は行えるはずであり、その看護方法は一つではない。また、退院後もその動物と家族の生活を支えていくことも看護の在り方であると考え。そして、経験の少ないまたは経験したことのない症例でも、動物看護師たちが、お互いの看護を共有しあっていれば、いざという時でもより質の高い看護に臨めるのではないかと考えている。

【参考文献】

1. SMALL ANIMAL SURGERY 下巻 interzoo p926・p927
2. 小動物外科臨床の実際 興仁舎 p319
3. THE VETERINARY ICU BOOK 獣医緊急医療マニュアル interzoo p117-p119

良質な看護を提供するための取り組み ～24 時間看護体制導入後の問題から見たこと

富永良子

Ryoko TOMINAGA

ネオベッツ VR センター

私達、動物看護師は動物病院という組織の中で、チームの一員として、日夜、獣医師と共に動物医療に携わっている。近年、社会一般的に家庭動物を家族の一員として認識する傾向が高まっており、飼育頭数も増加している。ペットフード工業会の調査では平成 20 年度の犬猫の飼育頭数は 2683 万 9 千頭であり、前年度より 130 万頭増加傾向にあると報告されている。このような変化などから、より高度で専門的な動物医療を望む飼主が増えており、良質な看護の提供も望まれている。それを実現するために、当施設内において私達が行った取り組みから今後の示唆を得たので報告する。

【はじめに】

当施設は、日中ホームドクターからの紹介診療を受ける部門(VR)と、夜間救急を担う部門(ER)の 2 つで成り立っている。VR と ER の間には勤務シフト的に、動物看護師不在の時間帯が存在していた。開院当初はマンパワーの問題から整備が困難であったが、昨年より勤務体制を見直すことで 24 時間看護体制を導入することが出来た。しかしながら、同施設とはいえ異なった診療システムにより成り立っているため、それだけでは、十分な連携が取れなかった例も存在する。そのため、患者動物にとって充実した 24 時間看護体制の実現を目指し、いくつかの工夫を行った。

【問題点と取り組み】

日中におけるシフトの構築は比較的容易であったが、夜間および早朝におけるシフトの構築は希望者が少ないこともあり容易ではなかった。そういった中で、なんとか 24 時間看護体制は整えることができたのだが、現実的に以下のような問題が浮上した。

<問題点>

- ① 限られた人数の中で、外来看護・手術補助・入院看護などの業務に関わるため中途半端になりがちであった
- ② 特に入院看護に対して担当者意識が希薄化しやすかった

<取り組み>

- ・ 動物看護師の増員をはかった
- ・ 各時間帯において、入院看護における入院室管理担当者を明確にした
- ・ 業務報告の徹底化を図った

増員をはかることで、より充実した看護体制を整えることができたが、今度は意思疎通をはかったり情報伝達が難しくなるという問題が浮上した。それに伴い入院看護における入院室管理担当者を決定し、引き継ぎをするものと受けるものを明確にすることで、担当者意識も高まったと感じる。入院看護における責任

者である看護師長への業務報告を徹底することで、看護全体の質は向上したと考えられる。さらに、各動物看護師が自発的行動によって円滑な意思疎通や情報伝達が可能なシステムの構築を目指す。

【おわりに】

担当した患者動物に 1 人の動物看護師が 24 時間休みなく看護することは困難である。看護を提供する動物看護師がまず健康でないとならない。「健康とは、身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態であって、単に病気や病弱でないことではない」と、世界保健機構(WHO)の憲章前文で定義されており、24 時間良質な看護を提供するためにはチーム看護が重要となる。人数が増えると意思疎通や情報伝達が困難となり、そのためにメーリングリストや看護記録などを活用しているが、それだけでは情報の共有は難しく、患者動物の様子や飼主の思いなど心で感じたことを顔を合わせて伝えることが、意思疎通や情報伝達として重要であると考え。今後の課題としては、自発的行動を引き出せるような充実したチーム看護システムの構築と、良質な看護の提供のための他施設での取り組みに関して情報共有することであると考える。

<参考・引用文献>

- * 西元勝子・杉野元子(2008)『固定チームナーシング 責任と継続性ある看護のために第2版』医学書院
- * 竹田透(2008)『健康に働くこととは』労働調査会
- * ペットフード協会:平成 20 年度全国犬猫飼育率調査結果(平成 21 年 1 月 21 日インターネット)
<http://www.petfood.or.jp/topics/topics-new.html>

自分たちの看護を見つめなおす —看護記録の監査を行って—

○橋本美穂 1) 瀬戸晴代 2) 松原孝子 3)

1) 2) 西谷獣医科病院 3) 一般社団法人日本動物看護職協会

人医療においては、看護職者の役割は、「看護ケアの計画の立案、実践、評価に責任を持ち、質が保証できるケアを行うことである」とあり、看護記録はこれらの看護過程を実行したことを証明するものである（厚生省（現厚生労省）看護課、1984）としている。また、日本看護協会の看護記録および診療情報の取り扱いに関する指針（2005）では、記録に関し「看護業務基準」において、「看護実践の一連の過程は記録される」と規定し、看護記録の記載を看護者の責務と位置づけている。

当院では、1999 年新規開院と共に、基礎教育において看護過程の学習をしていない動物看護職が、日々複雑な獣医療の現場においても、スムーズに動物看護過程を習得し、実践できるように、看護記録を工夫した。導入 3 ヶ月目と 1 年 3 ヶ月目のスタッフ 6 名へのアンケートの結果、はじめは、必要性を感じながらも、面倒な気持ちから 1 年後日々の看護記録によって、判断力が養えたことや自分の価値観、つまり、看護観にも影響することが認識できており、有効性が明らかになった。（西谷 2002）

本来、看護記録を書く目的は、対象とのコミュニケーションによって知り得た事柄や観察した事実は、記録することによって看護者全員に性格に伝えられ、看護実践に生かされる。それゆえ、看護者はすべての看護技術の実施に当たり、コミュニケーションや観察の技術とともに記録の技術も平素から見につけておかなければならない（松田 2003）と言われている。

このような背景より、看護の質＝記録の質ともいえるのではないだろうか？

そこで、今回、当院では今まで取り組んでいなかった看護記録の監査を実施した。基本的な看護記録作成に不可欠な項目を基に監査項目を設定し、監査を行った結果、当院で行っていた看護記録の内容に多くの不備や問題点が今回の監査を通して浮き彫りになった。人の医療における病院機能評価において、看護記録は重要な鍵となる。チーム医療としての記録を意識して取り組む異が重要であり、記録の充実は、看護ケアの改善となり、看護の質、さらには病院全体の獣医療の質の向上につながる事が明らかになった。

今後の看護記録、看護の質向上のために、看護記録の抱える問題点、そこから考えられる改善案をここに報告する。

院内教育とスタッフの育成を考える2 —中途採用者のレベルアップを目指して—

瀬戸晴代 1) 松原孝子 2)

1) 西谷獣医科病院 2) 一般社団法人日本動物看護職協会

日本は、今、少子高齢化社会を迎えている。このような状況の中で、動物看護職という職業は、法令に明記された国家資格ではなく、社会的認知は低く、一つの職業として確立されていない。また、養成（教育研修）体制、雇用及び業務環境も整備されているとは言い難い。このため、せっかく就業しても、就業期間は数年と短く、離職者も絶えまない。このような背景のもと、動物看護職を志す者、動物看護職として勤務する者は、今後も減少することが考えられる。しかしながら、現在の獣医療は、国家資格を有する獣医師だけではなく、他のさまざまな職種に関わる人々によって支えられている。（西谷 2009）

また、女性の就業に関する OECD（経済協力開発機構）の労働統計を用いたデータによる国際比較では、「M字型カーブ」と言われる日本独自のパターンが説明されている。この M 字型の窪みは、結婚や出産：育児に当たる 20 歳代後半から 30 歳代にかけて、多くの女性が就業しないことをしめす。

しかしながら、人生 50 年の時代から今や女性の寿命は 85 歳を超す長寿社会を迎え、女性のライフスケジュールにさまざまな変化をもたらしていることがわかる。長くなった一生の中で、家庭と職業を中心にいかに意味のあるものにしていくか課題となっている。（勝原 2004）

このような背景より今後、動物医療の人材を確保していくには、潜在している動物看護職の復職の支援が必要であると考えられる。

今回、当院にトリミング専門学校を卒業し、ペットショップへ就職するも 2 年で退職し、その後の職業につき、現在に至る復職・中途採用の動物専門職を雇用した。雇用にあたり、トリミング部門での活躍を期待するとともに、動物看護職のアシスタントとの業務も担うことになった。そこで、スタッフが家庭と仕事の両立ができ、無理なく少しでも働きやすい職場としてやりがいを持って継続勤務してもらうために、また、仕事内容の理解やトリミングの知識と技術のレベルアップを目標におき、復職支援プログラムとして取り組んだ。その結果、できる項目も少しずつ増え、分からない項目や内容は聞いたり調べたりするようになり、自己の知識や技術を向上する上で良い影響がみられた。指導した結果を振り返り、復職・中途採用者のキャリアレベルアップに対するスタッフ育成・指導について今後の示唆が得られたので、報告する。

一般演題（パネル発表） 要旨

日本動物看護職協会と日本看護協会との比較検討

一般社団法人 日本動物看護職協会

○齋藤 みちる 遊座 晶子 松原 孝子

2009年4月10日、動物看護職の職能団体である、日本動物看護職協会が一般社団法人として設立された。この協会は、「動物看護に関する学術及び教育の発展、動物医療における動物看護職の職域の確立を図ることにより、動物の健康と福祉の増進及び国民の健康と福祉の向上に寄与すること」を目的としている。設立へ至る経過は、2006年に今後の動物医療の提供を図る上において、獣医師と動物診療の関連職種との連携したチーム医療体制の整備が不可欠であるとの観点から「日本獣医師会小動物臨床部会動物診療補助職専門職検討委員会」が設置され、その専門職としての位置づけ、養成、資格認定の方法、職場環境整備等を検討することとなった。2008年2月10日、日本獣医師会、動物看護民間資格認定団体、動物看護職が参集し、「動物看護職全国協会（仮称）設立準備委員会」が設置される。同年11月には「日本動物看護職協会設立発起人会」が発足し、2009年4月7日、発起人会幹事会にて「日本動物看護職協会」設立が決議されて、一般社団法人の設立に至った。この協会は動物看護職の専門職能団体として研究や調査活動を重ね、日本の動物看護学を確立し、また協会の組織運営と事業の展開、発展を目指している。

一方、日本の看護に関する専門職能団体として規模の大きいもので日本看護協会（JNA）（2008年3月、会員数59万8072人）がある。日本看護協会は1946年11月23日に日本産婆看護婦保健婦協会として設立された。これ以前は「政策や運営について発言することもなく、また、教育、基準、免許、活動について自ら決定することもなく、医学的な訓練を受けていない男性理事に支配されていた」と表現されている。その後、産婆、保健婦、看護婦を1つの組織にし、専門職能団体の力を大きくすることを求められた。そして、1951年7月に保健婦助産婦看護婦法（現「保健師助産師看護師法」）の改正とともに日本看護協会と改称された。日本看護協会は協会の目的を「会員の自治によって保健師、助産師、看護師及び准看護師の福祉を図ると共に職業倫理の向上、看護に関する専門的教育及び学術の研究に努め、もって国民の健康と福祉の向上に寄与すること」と謳っている。

しかしながら、動物看護職は人の看護師とは異なり、協会設立時に法律の上でも職業としての明記がなく、また統一された資格もない。このような状況下で、専門職の職能団体としてあるべき姿とはいかなるものなのかを検討していく必要がある。

今回、日本看護協会の歴史を振り返りながら、設立時の時代背景や医療との違いを明らかにし、設立経緯、組織概要、事業、活動また看護協会が看護組織に与える影響を知り、日本動物看護職協会の設立と比較した。その結果、今後の活動に対する示唆を得たのでここに発表する。

動物看護職が職能団体に望むこと ～入会時アンケート調査より～

一般社団法人日本動物看護職協会

横田淳子 遊座晶子 松原孝子

はじめに

人の看護者の倫理綱領の中に、「看護者は、専門職組織を通じて、看護の質を高めるための制度の確立に参画し、よりよい社会づくりに貢献する。」とあり、「看護専門職の質及び社会経済福祉条件を向上させるために、専門職能団体などの組織を通じて行動する。看護者は、このような活動を通してよりよい社会づくりに貢献する。」と解説されている。

本年4月、動物看護に関する専門的教育及び学術の研究に努め、国民の健康と福祉を図ると共に動物の福祉の増進に寄与することを目的として、一般社団法人日本動物看護職協会（以下、本協会という）が、全国規模の職能団体として設立された。

本協会は、動物看護学の確立、動物看護の職域の確立、統一資格から国家資格化への推進を3大柱とし、動物看護職の社会的地位向上、職域環境の整備、現任教育の場としての役割を担うものとなる。

しかしながら、動物看護職においては、人の看護職と異なり、統一された資格もなく、動物看護基礎教育におけるカリキュラムの平準化もされておらず、動物看護職の倫理綱領・動物看護管理等の教育を成されているところが少ないというのが現状ではないかと考える。本協会会員は、このような状況の中で設立された職能団体に、どのような期待を持って入会したのだろうか？

今回、設立からの2ヶ月間（4・5月）の入会者を対象として、入会時にアンケート調査を行った。各々の会員が職能団体に入会する目的、さまざまな事業内容の中で、第一に推進すべき分野は何であると希望しているのか、また動物看護職の将来における期待とともに、国家資格化に対する考えを尋ねた。

その結果、本協会の事業内容および統一資格化への方向性を見出すことができ、今後の示唆が得られたのでここに報告する。

成長期の犬における血液生化学検査値の変化

○五十嵐綾乃¹⁾、板橋由紀子^{2、3)}、石岡克己³⁾、左向敏紀³⁾

1) 日本獣医生命科学大学附属動物医療センター、2) 株式会社モノリス

3) 日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科

【目的】

現在、血液生化学検査での参考値は、1 歳以上か 1 歳未満かで値が異なっている。アルカリフォスファターゼ (ALP) は、成長期 (1 歳未満) では高く、成長するにつれて低くなっていくというのは知られているが、他にも成長に伴って変化する項目も多いと考えられる。血液生化学検査の値を見て疾病があるかどうかを判断する時に、1 歳未満の場合の月齢ごとの成績がないと適切な判断をすることが出来ないと思われる。そこで、1 歳未満を月齢ごとに細かく分け、成長するにつれて血液生化学検査の値がどのように変化するのかを調査した。

【方法および材料】

健康診断のために 2008 年 2 月～7 月までに、一般の動物病院に来院した犬 893 頭 (3 ヶ月齢：7 頭、4 ヶ月齢：23 頭、5 ヶ月齢：53 頭、6 ヶ月齢：92 頭、7 ヶ月齢：121 頭、8 ヶ月齢：147 頭、9 ヶ月齢：120 頭、10 ヶ月齢：195 頭、11 ヶ月齢：135 頭) について調査した。

検査は、総蛋白 (TP)、アルブミン (ALB)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、ALP、アミラーゼ (AMY)、リパーゼ (LIPA)、尿素窒素 (BUN)、クレアチニン (CRE)、総コレステロール (T-cho)、血糖 (Glu) の 11 項目を測定した。測定方法は、TP：ビューレット法、ALB：BCG (ブロムクレゾールグリーン) 法、AST、ALT、AMY、LIPA、BUN、CRE、T-cho、Glu：酵素法、ALP：AACC (P-nitroferinn 酸) である。

【結果】

TP、ALB、AST、ALT、AMY、LIPA、BUN、CRE は月齢とともに増加し、5 ヶ月齢から 9 ヶ月齢の間で安定した値をとった。ALP、T-cho、Glu は月齢とともに減少し、ALP は 10 ヶ月齢で、T-cho は 4 ヶ月齢で安定した値をとったが、Glu は安定した値をとることはなかった。

【考察】

TP、ALB については、産生能力が増加したため、AMY、LIPA、BUN については、月齢とともに食事量の増加・食事内容の変化のため、月齢とともに増加したと考えられる。AST、ALT は、肝臓で主に産生されるが、AST は他にも骨格筋、心筋などに含まれており、肝臓および筋肉の成長により産生能力が増加し、月齢とともに増加したと考えられる。CRE は、筋肉量の増加に合わせて月齢とともに増加したが、5 ヶ月齢から安定した値をとったのは、筋肉の成長が緩やかになったと考えられる。ALP は、骨の成長にともなって出てくるが、月齢とともに骨の成長が緩やかになっていくため、減少したと考えられる。T-cho は、成長に伴いホルモンや胆汁酸の必要性および利用率が上昇したため、月齢とともに減少したと考えられる。Glu については、成長とともに膵臓の機能が発達してインスリン産生能力が増加し、細胞への Glu の取り込みが増加したため、また、食事による糖の取り込みが減少したため、月齢とともに Glu も減少したと考えられる。

Memo

Memo

日本動物看護学会 第18回大会 実行組織

大会長 高橋英司 (帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授)

実行委員 桜井富士朗 (帝京科学大学アニマルサイエンス学科 教授)

杉山尚子 (山脇学園短期大学 准教授)

加隈良枝 (帝京科学大学アニマルサイエンス学科 講師)

山本央子 (家庭犬育成指導、帝京科学大学・ヤマザキ動物専門学校 非常勤講師)

柳澤綾 (AC プラザ荏谷動物病院市川橋病院 動物看護師)

小野寺温 (帝京科学大学大学院)

萩原とみ子 (日本動物看護学会事務局)

庄司さやか (日本動物看護学会事務局)

日本動物看護学会 第18回大会 抄録集

2009年7月26日 発行

発行元 日本動物看護学会

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23 アクセス御茶ノ水 2F

TEL. 03-5298-2850 FAX. 03-5298-2851

E-mail info@jsan.gr.jp ホームページ <http://www.jsan.gr.jp>

無断で複写・複製・転載することを禁じます。
